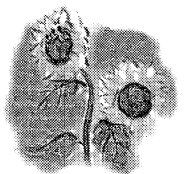


小 P 連 だ よ り

第 35 号

平成 18 年 9 月 1 日
発 行
八王子市立小学校
PTA 連 合 会



特集 「ドミノメール」

「子どもたちの防犯対策」から
「運動会延期のお知らせ」まで

「ドミノメールっていったい何のこと？」
と思われる方も多いと思います。今回の小 P 連だよりは、紙面の構成をがらりと変え、PTA 会員のみなさんに是非知っていただきたいこのシステムについてお伝えしたいと思います。

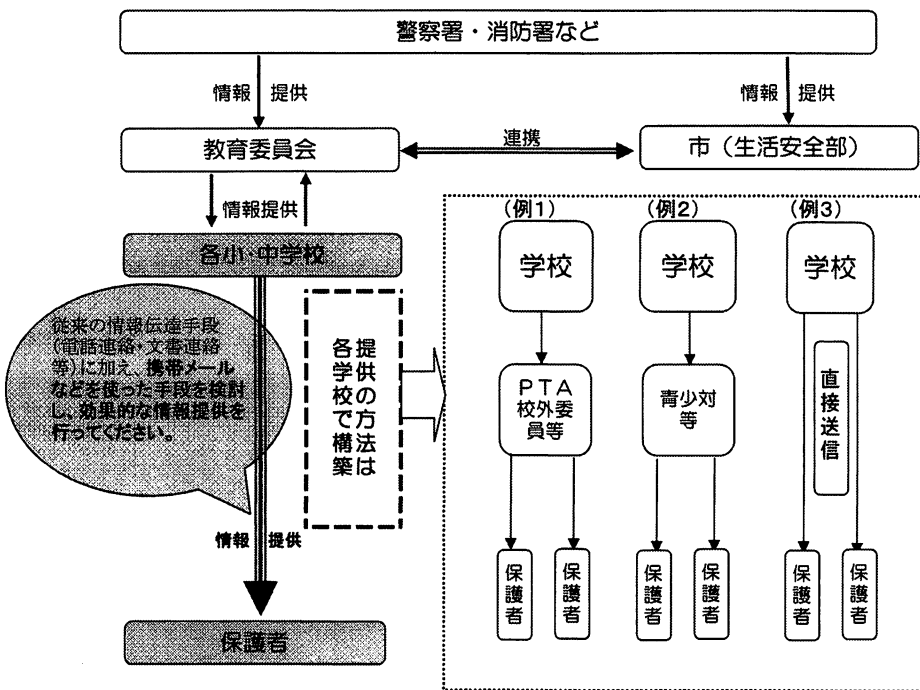
ドミノメールとは、ドミノシティという防犯情報システムに流れる電子メールのことです。ドミノシティのシステムを下図（八王子市学校教育本部提供）に示します。

ドミノシティは、八王子市教育委員会が不審者情報などを即座に各学校に伝達するために構築されたシステムで、平成十七年四月には、各小中学校長宛の文書の中で、このシステムの積極的活用を求める通知が学校教育部長名でなされています。

とはいえ、八王子の不審者情報といっても、自分の家から遠いところのものは受け取ってもしようがない、なんて思いますよね。

確かにそうなのですが、実は、ドミノシティを利用したシステムを各学校で構築すると、思わぬ副産物が得られるのです。

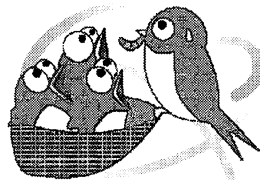
不審者情報の提供（フロー図）



つまり、システムさえできてしまえば、各学校の判断で自らの学区内で起きた不審者情報を独自に流すことができるのです。そしてさらに、「運動会延期のお知らせ」や「夏休み中のプールの中止のお知らせ」など、防犯とは関わりのない、だけ

ど非常に意味のある情報の送配が可能になるのです。

以下は、ドミノメールを既に活用している第一小学校と川口小学校、独自のメールシステムを利用している第六小学校のお話です。これをきっかけに八王子市内の各学校でドミノメールが活用されることを期待したいと思います。



行政情報ネットワークを使用した防犯情報連絡システムについて

第一小学校 副校長 金井 尚志

八王子市立第一小学校では、平成十七年十二月下旬から標記のシステムの構築に取りかかりました。当初は、教職員、PTA 役員に限定し、試験的に試みました。システムづくりには当たっては、本校の情報教育担当教諭が中心になりました。何回かのテストメールの発信で登録上の問題や発信の方法、課題を発見し、修正した上で PTA 役員とも協議しながら、平成十八年三月の「学校だより」で全校の家庭に登録を呼びかけました。三月末のある日、本校の児童が一時行方不明に

なる事件が発生しました。早速、各家庭にメールを送信して捜索をお願いしました。PTA役員や何人かの保護者が学校に駆けつけてくれたり、付近を捜索してくれたりしました。「見つかった」旨のメールを発信すると、「無事でよかったです。」という温かい返信メールを何件かもらいました。(返信メールは大変ありがたいのですが次回からは、「返信は必要ありません。」と付け加えることにしました。) 捜索に出ていた教員もメールを見て、すぐに引き返すことができました。

五月最後の日曜日には運動会を予定していましたが、生憎の雨となってしまいました。このときは、午前七時に防犯情報連絡システムと、電話による連絡をすることを事前に知らせてありましたので、何ら混乱なく伝えることができました。メールを受け取った何人かの保護者から、「メールを受け取ってお弁当を子どもの分だけにしました。」などの声を伺うことができました。

メール画面イメージ

運動会延期のお知らせ
本日の運動会は30日(火)
に延期します。全児童、8時
20分までにお弁当をもって
登校させてください。

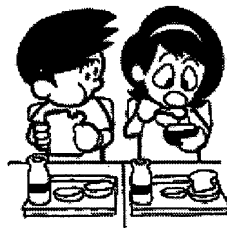
また同じ日、一年生だけに下校時刻について防犯情報連絡システムと、電話による連絡をしました。

六月九日には、六年生が有楽町の日生劇場まで

観劇教室に行きました。このときは、八王子駅に到着する時刻を、六年生だけに防犯情報連絡システムで連絡しました。保護者が解散場所へ迎えに来ていました。

年度が変わり改めて登録のお願いするとともに、こうした防犯情報連絡システムによる連絡を積み重ねることによって、徐々に登録の数が増えてきています。現在は、教職員や地域の方を除いて二百三十四件、児童数から見た割合は約六十五%の方に登録していただいています。

今後、さらに登録を増やし、防犯情報連絡システムによる連絡のみにできればと、考えています。



携帯電話等への緊急連絡体制の構築について

ドミノメールの活用を通して

川口小学校 校長 野田 不二夫

携帯電話等への緊急連絡体制については、市内では「陶鎔小学校」が一番早く導入され、その情報が第二ブロック内では早く流れていました。したがってその後、川口小ばかりではなく比較的多くの学校がこのブロックでは導入していると思います。その二ブロックの代表として、経緯や課題などを述べてみたいと思います。

八王子市では平成十七年四月、各校に配置されている行政情報ネットワーク(ドミノシティ)を使用した「防犯情報連絡システム」を各学校では積極的に構築しよう通知が出されました。しかし、実態としては、なかなか八王子市全体には広がっていないようです。子どもの安全を願うのは保護者も学校もまったく同じ考えであります。そのため、学校と保護者が一体となった「緊急連絡体制」が早くできることを願って、川口小での経緯を述べてみたいと思います。参考にしていただけたら幸いです。

①「副校長」がパソコンに堪能でした。また、校長も一般的な知識はありましたので、機械的な操作・入力は簡単にできました。

②保護者の理解もあり、多くの方が登録されました。

③テストで発信したことはありませんが、実際の事件等で発信したことは、まだありません。

④テスト発信の際、アドレスの間違えや、携帯電話の着信設定で拒否されたものもあり、これらの解決が今後の課題です。

このシステムは、現在「緊急連絡手段」として構築されています。一方、現在学校では固定電話を使った連絡網が一般的であり、なかなか連絡が伝わりにくい実態があります。これらも含めた、これからの連絡手段のありかたについても、保護者と学校が一体となって構築していくことが大切かと思えます。紙面の都合で伝わらなかった点については、遠慮なく川口小校長までご質問ください。

い。
d354700@city.hachioji.tkyo.jp (校長専用のメールです)



P T A 独自のメール配信について

第六小学校 P T A 会長 植田 典仁

六小では平成十六年度より P T A 独自でメール配信を行ってきました。導入のきっかけとなった一番の理由としては、緊急連絡網が上手く機能していなかったことです。ところがいざ導入しようとしたところ

① 誰のパソコンを使うか。

② アドレスを誰がどう管理するのか。

③ 情報を得てから配信までの経緯をどうするか。

④ 料金は？

等々様々な問題が大きな壁となって立ちほだかりました。しかし、当時副会長の小室さんがその問題の殆どを解決して下さり、何とか配信までこぎ着けました。

使ってみるととても快適で、現在では連絡だけではなく不審者情報、行事の告知、呼びかけなど大活躍しています。ただいつも思うのですが年度始めのアドレスの整理には、仕事の合間を縫って行っても一ヶ月かかると聞いていますし、それを管理する責任の重さはボランティアの域を超

えていると思います。そこで六小でも一日も早くドミノメールへの移行を目指し学校と調整中です。

話は変わりますが、このドミノメールに関して八王子市独自の施策と聞いておりますがその対応の早さや、構築するにあたってのかかる労力を考えると感謝せずにはおれません。またアドレスを市が母体となって管理してもらえるのはとても理想的で素晴らしいシステムだと思います。ただこの素晴らしい施策が、前記しましたが個人的に大きな労力がかつたり、担当者が P C に精通していなかったりと学校間で足並みが揃っていない為、使いたくても使えないという状況になってしまっています。まさに「神仏を創って魂を入れず」というところでしょうか・・・

最後になりますが紙面を借りて行政にお願いです。今「神仏」の素晴らしいに現場は混乱しています。是非熱い魂を注ぎ込んでいただき本当に素晴らしいドミノメールという仕上げをお願いいたします。



八王子市教育委員会
教育長
石川 和昭

本市教育の向上を目指して

今、子どもたちを取り巻く環境は、日々複雑になっていきます。治安の悪化、情報化の進展、また、少子高齢化など、家庭・学校、また地方公共団体を取り巻く課題は増すばかりです。こうした中、未来社会創造のための教育改革の推進は極めて重要ですが、こういう時こそ、学校、家庭、地域が原点に返りそれぞれの役割を果たすことが大切であると考えています。

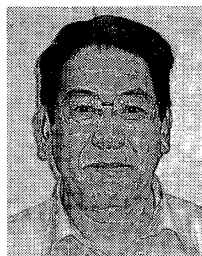
学校教育では、今、学力向上が重要課題のひとつとなっています。学力は「生涯を生きていくための力」となるものであり、その力をつけさせるため、学校は授業で勝負をする必要があります。そのためには、教員の資質向上と意識改革が何より必要なことと考えています。

教員のなお一層の努力と保護者の学校への更なる理解と協力を頂ければ、必ず成果は出るものと確信しています。

また、本年、人材バンクを創設し、さまざまな経験・能力・技術を持つ地域の方々に登録をお願いし、学校で活躍してもらうことにしました。退職校長会、老人クラブ、町会・自治会などに働きかけ、外部の人たちの力を借りて山積する課題の解決につなげていければと考えます。

教育は、地味なもので、足元から積み上げていくことが大切だと考えています。家庭・地域との共同作業によって一つひとつ問題を解決するしかありません。

小 P 連には、日頃からのさまざまな取り組みのほか、課題の解決に向けた貴重な提言をするなど、八王子の教育活動の推進に多大な貢献を頂いております。今後も一層のご活躍を期待しております



八王子市公立小学校
校長会会長
川上 卓一
(第一小学校長)

開かれた P T A に

小学校低学年や幼児が犠牲となる事件が続発し、社会不安を引き起こしています。学校としてもセーフティー教室や防犯教室、学級指導等で被害にあわないように指導していますが、安心できません。

その中で保護者をはじめ地域の方々ボランティアとして地域を巡回していただいていることは力強く感じます。

さて、P T A 活動とは何かと考えさせられることがあります。これまでの P T A 活動は保護者・児童・教職員が学校内において子どもの教育環境の充実や相互の理解を深めるような活動に重点をおいてきたのではないのでしょうか。しかし、最近の事件や近年の社会情勢から子どもを守り、教育を充実させていくという親の願いは学校内にとどまっています。

P T A 活動を支える三十代、四十代は社会を支える世代でもあります。子どもを中心に P T A が地域社会に働き掛け、社会を動かしていくとき P T A の将来の展望が開け、成果を挙げるようになるのではないのでしょうか。

仕事・子育てにと忙しい日々ですが、将来を担う子どものため開かれた力強い P T A となるよう頑張っていきたいと思います。



八王子市小学校
P T A 連合会会長
石橋 薫
(第三小学校会長)

小 P 連の新しいカラー

小 P 連会長を仰せ付かりました第三小学校 P T A 会長の石橋薫です。

まず、昨年度、心身全霊を込めご努力頂いた、黒沢栄会長を始め本部役員の皆様、顧問の皆様、校長会の先生方、関係行政の皆様、有難うございました。小 P 連の弛まぬ前進を全力で支えて頂いた事を心より御礼申し上げます。

私の責務は、P T A 不要論もある中で、P T A 活動の原点は地域小学校の子どもたちの健全な育成と安全確保にあり、安全と防災と文化の新しい地域づくりの拠点は小学校にあるという確信に基づき、八王子市の小学校全てを P T A 組織と小 P 連に結集させるべく努力することと考えています。

その為には、やはり小 P 連の活動は良き歴史と伝統のもと継続すべきものは継続し、改めるべきは改めるといふ新しいカラーで、I T を活用し、事務その他を簡素化し、次年度に引き継いで行きたいと思っております。

コミュニケーションとチームワークを大切に、関係行政のお力を借りながら、「安全と安心」を中心に据え、労を惜しまず、粉骨碎身、良き運営に努力致しますので本年度一年間、宜しくお願ひ致します。

平成十八年度 小 P 連役員紹介

- 会 長 石橋 薫 (第三小会長)
- 副会長 市川 涉 (加住小会長)
- 副会長 松本 智量 (陶鎔小会長)
- 副会長 寺田さやか (上壺分方小会長)
- 副会長 小山 知子 (恩方第一小会長)
- 副会長 栗原佳世子 (第五小会長)
- 副会長 百瀬 匡子 (長沼小会長)
- 副会長 石川清一郎 (浅川小会長)
- 庶務 杉浦 涉 (第三小校長)
- 庶務 高野 明彦 (第三小副校長)
- 会 計 浅野 祐司 (小宮小会長)
- 会 計 池口 昌子 (船田小会長)
- 会 計 浅見 敏夫 (小宮小校長)
- 監 査 大久保佳苗 (由井第三小会長)
- 監 査 福田 春男 (由井第三小校長)
- 顧 問 坂本 一枝 (十四、十六年度会長)
- 顧 問 黒沢 栄 (十七年度会長)



◆編集後記◆

新しいことをやろうとすると、何かと手間がかかります。でも、小 P 連新会長の効率的かつ現実的運営方針に大いに共感し、手間を惜しんで協力することにしました。いや、本当はもっと斬新な紙面にしたかったのですが、手間を惜しむことができずに断念しました(苦笑)。次号以降の担当者による斬新な紙面作りを期待することにして、今号はこの程度でご勘弁ください。(六小 Y)